

京林大だより

No.74



絵：卒業生 熊走君

5年ぶりのドイツ研修

令和6年6月、5年ぶりのドイツ研修を実施しました。6月15日夕方、林業大学校を出発した2年生10名と教員2名は関西国際空港からドバイを経て、約1日かけてドイツのフランクフルト空港に降り立ちました。現地の通訳・コーディネートを務めていただく客員教授の安井暁世先生と無事合流、借上げバスの車窓から広大な農地と丘のようななだらかな森林を眺めながら研修がスタートしました。それでは、主な研修先の概要を報告します。

ロッテンブルグ林業大学

ドイツ国内にある9つの林業系の大学の1つで、日本人留学生が在籍し、また短期のサマースクールに日本人も参加するなど、日本との交流が活発に行われている。見学した大学に隣接する試験林の主な樹種は、オーク（ナラ）、ドイツトウヒ、マツ、ブナ。ドイツでは10年に一度、全国規模で森林調査（在庫調査）が行われ、それを基に森林の経営・施業計画が立てられている。（写真①）

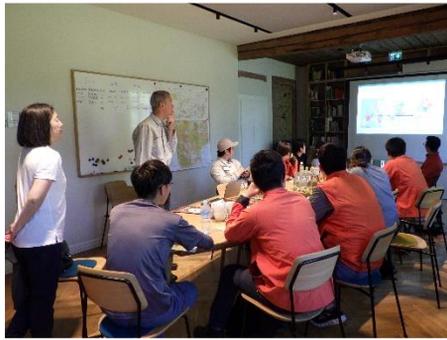


写真①

ハーナウ・ヴォルフガング営林署（ヘッセン州）

営林署には森林官（フォレスター）が配置されていて、州有林の管理と市町村有林や民有林の経営のアドバイスを行っている。森林の育成の方向性は、気候変動への対応力を持たせるため、混交林化。

また、野生動物管理についての決め手は狩猟。営林署の敷地内にジビエ肉の販売所があるなど、狩猟は人々の生活に近いところにある。（写真②）



写真②

林業展（KWF-Tagung2024）

4年に一度開催される林業展に参加した。500以上の企業・団体が出展、4日間で約5万人の来場者を迎える世界最大規模の林業イベントで、最新鋭の林業機械などを見学した。午後は、植林から伐採、集材まで様々なテーマで専門家の解説によるデモが行われる「エクスカージョン」に参加。「降水の貯留を考慮した木材収穫及び林道開設の方法」と「被害木のロープワークを用いた伐採」の2テーマを見学、専門家の方に質問をしながら理解を深めた。

青少年の家

営林署に付属する野外施設で、子どもたちが学校のクラス単位で訪れて森林教育のプログラムを受ける。私たちも実際に行われているプログラムを体験させていただいた。簡単なアトラクションのような気分で参加しながら、森の役割や大切さを学ぶ。活動を通じて、「生物多様性」と「持続可能性」の重要性に気づいていく仕掛けがなされていた。（写真③）



写真③

（最後に）ドイツ国内を約1週間、駆け足の行程でしたが、天候にも恵まれ予定通りに研修を終えることができました。日本とドイツ、森林の傾斜や所有形態等に大きな違いがあり、ドイツの技術をそのまま日本の林業に当てはめるのは難しいですが、学生は多くのことを学び、日本の林業を見つめ直すきっかけになったようでした。



オープンキャンパス2024& 学校説明会を開催します

『オープンキャンパス2024』

毎年夏に開催しているオープンキャンパスを今年度も実施します。多くのご参加をお待ちしております。

日時：令和6年7月27日(土)
13:00～15:30

内容：林業大学校の紹介、高性能林業機械等
実演、個別相談コーナーなど

『学校説明会』

学校説明会を次のとおり開催します。

①令和6年8月 3日(土) 10:00～12:00

②令和6年8月17日(土) 10:00～12:00

内容：林業大学校の紹介、個別相談コーナー
など

※事前に申し込みが必要となります。

※詳細は林大HPをご覧ください。

今月の授業参観

『育林技術3』

ロープ高所作業・フルハーネス型墜落制止用
器具特別教育【R6新規授業】

6月27日(木)及び28日(金)、特殊伐採の業務に必要な資格取得のための特別教育（2種類）を2年生が受講しました。

（株）レスキュー
ジャパン 宇山氏の指
導の下、1日目は座学
とロープワーク等の
実技、2日目は和知中
学校の駐車場をお借
りして、実際にロー
プとフルハーネスを
使った降下実習を行
いました。

梅雨の天候にドイツ研修疲れも残る中でしたが、皆熱心に取り組み、無事に修了証をいただくことができました。近い将来、各々の就職先で活かされることを期待します。



(上)壁面での垂直降下
(下)新しい資格ゲット！



校長室より

林大生、林業技術を磨きながら日々成長しています

校長 大下 起代

4月に1年生を迎えてから早や3か月が経過しました。

1年生は、この間、森林科学や育林技術等を基礎から学んだほか、チェーンソーや刈払機の実習をこなしながら様々な資格取得にもチャレンジしました。資格ごとに、まず、聞きなれない専門用語が飛び交う座学から学び、筆記試験合格後に技能講習へとコマを進め、最後に実技試験に合格することで資格が得られます。屋外での技能講習は、1日中カッパを着て受講することもあり、知力や技術力の他に忍耐力や体力も必要ですが、既に、掘削・積込・整地を行う車両系建設機械や小型移動式クレーン、玉掛け等の7つの資格を無事取得しました。

2年生は、6月にドイツ研修へ。今後の人生において、訪問先、同行メンバーとも、これほど林業づくめの海外研修に参加する機会は、ほぼ無いと思われます。そのような大変貴重な時間の中で、ドイツから今までと違った目で日本の林業を見て考え、強く感じたことを発表してくれる夏休み前の報告会が今から楽しみです。帰国後は、旅の疲れや時差ボケが解消しないまま、今年度からの新規授業である特殊伐採業務に必要なロープと墜落制止用器具の取扱いについて、学んで実習をして、また一つ新たな資格を取得したところです。

学生が、短期間で日々修練を重ね、専門的な知識をどんどん習得し技術力を向上させていく姿を見て、間近で成長を実感できることに喜びを感じております。

学生が、安心して学びを重ねられるのも、毎日の生活の基盤があってこそであります。

今後とも地域の皆様には大変お世話になりますが、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。